

平成14年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH		生物化学的酸素要求量 BOD		浮遊物質量 SS		溶存酸素量 DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	8.5	8.1	5	0.6	1.1	5	1.5	2.1	5	11.4	11.7
		9	8.5		9	1.7		9	2.8		9	10.2	
		11	7.6		11	0.7		11	2.7		11	11.4	
		2	8.0		2	1.4		2	1.2		2	13.7	
	高戸橋	5	7.4	7.3	5	3.4	2.7	5	2.6	2.5	5	7.7	8.2
		9	7.4		9	1.4		9	2.3		9	8.0	
		11	7.2		11	0.8		11	<1		11	8.4	
		2	7.3		2	5.2		2	<1		2	8.7	
妙正寺川	四村橋	5	7.5	7.4	5	1.0	2.0	5	9.1	6.6	5	8.8	10.7
		9	7.5		9	1.6		9	11.8		9	11.5	
		11	7.2		11	1.4		11	2.3		11	10.7	
		2	7.2		2	4.2		2	3.0		2	11.6	

各項目の解説

水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5 ~ 8.5 (C類型)

生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5 mg / l以下 (C類型)

浮遊物質量 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50 mg / l 以下

溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5 mg / l以上 (C類型)